

単元のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、物質のすがたおよび状態変化、水溶液のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現する。 身のまわりの物質に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、物質のすがた、水溶液、状態変化を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現している。	身のまわりの物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身のまわりの物質の性質を様々な方法で調べる実験を行い、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解するとともに、実験器具の操作、記録のしかたなどの技能を身に付ける。	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、身のまわりの物質とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質のすがたについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	物質のすがたに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価例		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 身のまわりの物質 A 物質とは何か B 物質の性質を調べる方法 ◆1分野（2）ア（ア）㉔、イ ＜身のまわりの物質の性質に着目して物質を分類できることを見いだして理解する。加熱のしかた、実験器具の操作、記録のしかたなどの技能を身に付ける。また、身のまわりの物質は有機物と無機物に分けられることを知る。＞	規 準 方 法 A 基 準 B 基 準	・有機物と無機物の性質のちがいを理解し、知識を身に付けている。 ・薬品や器具の使い方、ガスバーナーなど加熱器具の基本操作を身に付けている。 ・実験結果を整理し、自分の考えを表などにまとめることができる。	★身のまわりの物質とその性質に関する事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって実験を行い、物質の固有の性質と共通の性質について、自らの考えを導いたりまとめたりして、表現している。	・身のまわりの物質に興味をもち、物質の性質を利用して区別しようとするとともに、事象と日常生活との関係について調べようとしている。
		行動観察、レポート、パフォーマンステスト、ペーパーテスト	レポート、ペーパーテスト	行動観察、レポート、質問紙
		・実験結果が正しいかを判断した上で、調べた物質が何であるかを正しく理解している。 ・ガスバーナーの仕組みを理解し、正しく安全に操作している。 ・実験結果を整理し、自分の考えをわかりやすく表などにまとめることができる。	・見た目が似ている物質を見て、どのようにしたら区別できるかという問題を見いだして、性質のちがいに着目して課題を設定している。 ・白い粉末の物質を調べる方法を複数あげて、見通しをもって計画を立て、物質固有の性質と共通の性質があることを見いだして、自らの考えを導いたりまとめたりしている。	・身のまわりの物質を調べる方法について、既習の知識や他者の考えをとり入れながら、さまざまな物質を進んで調べている。
		・実験結果から、調べた物質が何であるかを理解している。 ・ガスバーナーを正しく操作している。 ・実験結果を整理し、自分の考えをまとめることができる。	・見た目が似ている物質を見て、どのようにしたら区別できるかという問題を見いだして、課題を設定している。 ・白い粉末の物質を調べる方法について計画を立て、その性質について、自らの考えをまとめている。	・身のまわりのさまざまな物質を調べている。
2 金属の性質 ◆1分野（2）ア（ア）㉔、イ ＜金属に共通な性質を調べる実験を行い、金属には導電性や金属光沢など共通の性質があることを見いだす＞	規 準 方 法 A 基 準 B 基 準	★金属と非金属の性質のちがいについて理解し、知識を身に付けている。 ★金属と非金属を区別する方法を身に付けている。	・金属に共通な性質を調べる実験を行い、実験結果にもとづいて金属と非金属を区別することができる。	・金属が使用されている場面などを考え、金属の性質について問題を見いだし、探究しようとしている。
		行動観察、レポート、パフォーマンステスト、ペーパーテスト	レポート、ペーパーテスト	行動観察、レポート、質問紙
		・金属と非金属のちがいを理解し、具体例をあげて説明できている。 ・金属に共通な性質を調べる実験を安全に正しく行い、実験結果を適切に記録したり、わかりやすく整理したりできている。	・金属に共通な性質を調べる実験の結果が正しいかどうかを判断した上で、調べた金属に共通な性質や非金属とのちがいについて、自らの考えを導いたりまとめたりしている。	・いろいろな金属について、観察や手ざわりを調べ、金属の中でもちがいがあることに気がつき、それぞれの金属を区別する方法について考え、進んで話し合いをしている。
		・金属と非金属のちがいを理解している。 ・金属に共通な性質を調べる実験を行い、実験結果の記録や整理ができる。	・金属に共通な性質を調べる実験の結果から、調べた金属に共通な性質や非金属とのちがいについて、調べた金属の種類について自分の考えを導いている。	・いろいろな金属を区別する方法について話し合いをしている。
3 密度 ◆1分野（2）ア（ア）㉔、イ ＜同じ体積でも質量が異なるものがあることを知り、物質を区別する手掛かりになることを見いだす。また、公式を使って体積と質量から密度を計算をし、物質の密度を求める技能を身に付ける。＞	規 準 方 法 A 基 準 B 基 準	・物質によって密度がちがうことを理解し、密度についての知識を身に付けている。 ・電子てんびんやメスシリンダーの基本操作を身に付けている。	★物質の体積と質量の関係に着目し、密度のちがいからいろいろな物質を区別することができる。	★密度が物質を区別する手掛かりになることに関心をもち、いろいろな物質について調べようとしている。
		行動観察、レポート、パフォーマンステスト、ペーパーテスト	レポート、ペーパーテスト	行動観察、レポート、質問紙
		・密度の定義と求め方について説明でき、計算で密度を求めている。 ・電子てんびんやメスシリンダーを用いて、誤差が少なくなるように質量や体積をていねいに測定し、適切な結果を得ている。	・実験結果の誤差を考慮しながら密度を求め、物質の種類を正しく区別することができる。	・物質の体積と質量の関係について考え、いろいろな物質について進んで調べようとしている。
		・密度の公式を理解し、計算で密度を求めている。 ・てんびんやメスシリンダーを用いて質量や体積を測定している。	・密度を求め、物質の種類を区別することができる。	・物質の体積と質量の関係について、調べようとしている。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解するとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身に付ける。	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、気体の発生と性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	気体の発生と性質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質における規則性を見いだし表現しているなど、科学的に探究している。	気体の発生と性質に関する事柄・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時 数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価例		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	身のまわりの気体 A 気体の性質の調べ方 B 酸素と二酸化炭素の性質 ◆1分野（2）ア（ア）㊦、イ 〈気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解するとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身に付ける〉	規 準 方 法 A 基 準 B 基 準 ・気体の性質を調べる方法を理解し、知識を身に付けている。 ★発生する気体を予想し、その特性に応じた捕集法を選択することができる。 ・酸素や二酸化炭素の性質を理解し、それぞれの気体の集め方と関連付けて理解している。 ・酸素や二酸化炭素を発生させる実験を安全に正しく行い、実験結果を適切に記録したり、わかりやすく整理したりできている。	★身のまわりの気体とその性質に関する事柄・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって実験を行い、それぞれの気体に特有の性質があることを見いだし、表現している。 ・それぞれの気体に特有の性質があることや、同じ気体を異なる方法で発生させても、同じ性質であることを見いだし表現している。 ・それぞれの気体に特有の性質があることを見いだし表現している。	・身のまわりの気体に興味をもち、意欲的に探究しようとするとともに、日常生活と関連付けて考えようとしている。 ・大気に含まれている身のまわりの気体について考え、それらの気体について主体的に調べようとしている。 ・大気に含まれている身のまわりの気体について主体的に調べようとしている。
2	いろいろな気体の性質 ◆1分野（2）ア（ア）㊦、イ 〈いろいろな気体について、それぞれに特有の性質があることを知る〉	規 準 方 法 A 基 準 B 基 準 ・それぞれの気体に特有の性質があることを理解し、知識を身に付けている。 ペーパーテスト ・水素やアンモニア、窒素などの気体の発生方法や捕集方法をその性質と関連付けて説明できている。 ・水素やアンモニア、窒素などの気体の発生方法や捕集方法を理解している。	★いろいろな気体の性質について、基準を決めてまとめることができ、気体が関係する現象について原理を説明できている。 ペーパーテスト、ワークシート ・アンモニアの噴水実験の原理を理解し、科学的に説明できている。 ・アンモニアの性質と噴水の原理を関連付けて説明できている。	★いろいろな気体に興味をもち、それらにどのような性質があるか、科学的に探究しようとしている。 行動観察、ワークシート ・水素やアンモニアなどの気体の性質について考え、それらの気体について進んで調べようとしている。 ・水素やアンモニアなどの気体について、調べようとしている。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解する。 ・物質は融点や沸点を境に状態が変化することを知るとともに、混合物を加熱する実験を行い、沸点の違いによって物質の分離ができることを見いだして理解する。	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	状態変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	状態変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 状態変化と質量・体積 A 固体・液体の状態変化 B 液体・気体の状態変化 ◆1分野（2）ア（ウ）②、イ	〈物質の状態変化について観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解する〉	規準 ★状態変化によって、体積は変化するが質量は変化しないこと、また、その際、物質の状態が変わるだけで、物質そのものは変化しないことを理解し、知識を身に付けている。 ★ガスバーナーや電子てんびんの操作を身に付けている。	・ろうや水、エタノールの状態変化に関する事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって実験を行い、状態変化によって、体積は変化するが質量は変化しないこと、また、その際、物質の状態が変わるだけで、物質そのものは変化しないことを見いだして理解し、表現している。	・物質の状態変化に興味をもち、状態変化にもなって体積や質量がどのように変化するか、日常生活と関連付けて見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		方法 行動観察、レポート、ペーパーテスト	レポート、ペーパーテスト	行動観察、質問紙
		A基準 ・状態変化によって体積は変化するが質量は変化せず、物質そのものは変化しないことについて、具体例をあげて説明できている。 ・ガスバーナーや電子てんびんの仕組みを理解し、正しく安全に使用し、適切な結果を得ている。	・物質の状態が変化するときの体積と質量の変化について調べる実験を、見通しをもって行い、実験結果から、状態変化が起こるとき体積は変化するが質量は変化しないことを見だし、適切に表現している。	・物質の状態が変化するときの質量と体積について、日常生活と関連付けて考え、見通しをもって学習にとり組もうとしている。
		B基準 ・状態変化によって体積は変化するが質量は変化せず、物質そのものは変化しないことを説明できている。 ・ガスバーナーや電子てんびんを正しく使用している。	・物質の状態が変化するときの体積と質量の変化について調べる実験を、見通しをもって行い、実験結果から、状態変化が起こるとき体積は変化するが質量は変化しないことを見だし、表現している。	・物質が変化するときの質量と体積について、日常生活と関連付けて考えている。
2 状態変化と粒子の運動 ◆1分野（2）ア（ウ）②、イ	〈物質の状態変化における規則性を見いだし、粒子のモデルと関連付けて理解する〉 〈状態変化によって粒子の運動のようすが変化していることを知る〉	規準 ・物質の状態変化を粒子のモデルと関連付けて理解し、知識を身に付けている。	★物質の状態変化では、粒子のサイズや数に変化せず、粒子の運動のようすが変化していることを、粒子のモデルを使って表現している。	★他者との対話を通して、物質の状態変化を粒子のモデルを使ってどのように表現するかまとめようとしている。
		方法 ワークシート、ペーパーテスト	ワークシート、発表	行動観察
		A基準 ・状態変化で体積は変化するが、質量は変化しない現象について、さまざまな例をあげ、粒子モデルと関連付けて理解している。	・物質は状態変化しても、粒子のサイズや数に変化せず、粒子の運動のようすが変化していることを、さまざまな例について、粒子のモデルを使って表現している。	・物質の状態変化を粒子のモデルを使ってどのように表現するか、主体的に対話し、まとめている。
		B基準 ・状態変化で体積は変化するが、質量は変化しないことを粒子のモデルと関連付けて理解している。	・物質は状態変化しても、粒子のサイズや数に変化せず、粒子の運動のようすが変化していることを、粒子のモデルを使って表現している。	・物質の状態変化を粒子のモデルを使ってどのように表現するか、対話を通してまとめようとしている。
3 状態変化と温度 ◆1分野（2）ア（ウ）③、イ	〈物質は融点や沸点を境に状態が変化するすることや、融点や沸点は、物質の種類によって決まっていること、融点や沸点の測定により未知の物質を推定できることを理解する〉	規準 ★物質の状態変化が起こっている間は加熱や冷却を続けても温度が変わらないことに着目しながら、物質は融点や沸点を境に状態が変化するすることや、融点や沸点は、物質の種類によって決まっていることを理解し、知識を身に付けている。 ★物質の状態が変化するときの温度変化をグラフに表すことができる。	・物質の状態が変化するときの温度変化のグラフから、加熱した時間と物質の温度変化の関係を読みとり、その関係を考察して、表現している。	・物質の融点や沸点について、身のまわりの事物・現象を振り返りながら、見通しをもって学習にとり組もうとしている。
		方法 行動観察、レポート、ペーパーテスト	レポート、ペーパーテスト	行動観察、レポート
		A基準 ・物質の状態変化が起こっている間は加熱や冷却を続けても温度が変わらないことに着目しながら、融点は固体から液体になるときの温度、沸点は液体が沸騰するときの温度であること、物質によって融点や沸点が決まっていること、融点や沸点から未知の物質が推定できることを理解しているとともに、純粋な物質と混合物のちがいなどについて、具体例をあげて説明できる。 ・エタノールの温度変化をグラフに表すことがより正確にできている。	・いろいろな物質について、物質の状態が変化するときの温度変化のグラフから、ある温度で加熱続けても温度が変わらないことを見だし、表現している。	・物質の融点や沸点について、身のまわりの事物・現象を振り返り、状態変化と温度の関係について考え、進んで探究している。
		B基準 ・融点は固体から液体になるときの温度、沸点は液体が沸騰するときの温度であること、物質によって融点や沸点が決まっていること、融点や沸点から未知の物質を推定できることを理解しているとともに、純粋な物質と混合物のちがいなどについて、具体例をあげて説明できる。 ・エタノールの温度変化をグラフに表すことができている。	・物質の状態が変化するときの温度変化のグラフから、ある温度で加熱続けても温度が変わらないことを見だし、表現している。	・物質の融点や沸点について、身のまわりの事物・現象を振り返り、状態変化と温度の関係について考え、探究しようとしている。
4 蒸留 ◆1分野（2）ア（ウ）④、イ	〈沸点のちがいを利用して、2種類の液体の混合物から物質を分離できることを見いだして理解する〉	規準 ・沸点のちがいを利用して混合物から物質が分離できることを理解している。 ・蒸留に関する実験操作や、実験の計画的な実施、結果の記録や整理のしかたを身に付けている。	・混合物を加熱する実験を行い、沸点の違いを利用して物質を分離できることを見いだして表現している。	★2種類の液体の混合物から沸点のちがいを利用して物質を分離できるか調べる実験に見通しをもってとり組み、日常生活と関連付けて考えようとしている。
		方法 行動観察、レポート、ペーパーテスト	レポート、ペーパーテスト	行動観察、レポート
		A基準 ・蒸留が沸点のちがいを利用して混合物から物質を分離する方法であることを理解しており、具体例をあげて説明できている。 ・蒸留の実験を安全に正しく行い、実験結果を適切に記録したり、わかりやすく整理したりできている。	・赤ワインを加熱する実験を行い、沸点の違いを利用して物質を分離できることを見いだして、根拠を示して表現している。	・赤ワインから沸点のちがいを利用してエタノールを分離できるか調べる実験に見通しをもってとり組み、身のまわりで蒸留が利用されているいろいろな例について調べようとするなど、意欲の高まりが十分に見てとれる。
		B基準 ・蒸留について理解している。 ・蒸留の実験を行い、実験結果の記録や整理ができている。	・赤ワインを加熱する実験を行い、沸点の違いを利用して物質を分離できることを見いだして表現している。	・赤ワインから沸点のちがいを利用してエタノールを分離できるか調べる実験に見通しをもってとり組み、身のまわりで蒸留が利用されている例について調べようとするなど、意欲の高まりが見えてとれる。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・水溶液から溶質をとり出す実験を行い、その結果を溶解度と関連付けて理解する。	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、水溶液についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	水溶液について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	水溶液に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 物質の溶解と粒子 ◆1分野（2）ア（イ）㉔、イ 〈物質の水への溶解を粒子のモデルと関連付けて理解する〉	規 準 方 法 A 基 準 B 基 準	・水溶液の中では溶質が均一に分散していることを粒子のモデルと関連付けて理解し、知識を身に付けている。	★物質が水に溶ける仕組みについて、粒子のモデルと関連付けて、規則性を見いだして表現している。	・物質が水に溶ける現象に興味をもち、習得した知識・技能を活用して、見通しをもって学習にとり組もうとしている。
		ワークシート、ペーパーテスト	ワークシート、ペーパーテスト	行動観察、質問紙
		・水溶液、溶質、溶媒などの語句が何を指しているかについて理解しており、水溶液の中では溶質が均一に分散していることを、粒子のモデルと関連付けて正しく説明できている。	・コーヒースーガーや硫酸銅が水にとけるようすから、物質が水に溶けても、粒子のサイズや数が変化したりなくなったりしないことを、粒子のモデルと関連付けて、規則性を見いだして表現している。	・物質が水に溶ける現象に興味をもち、状態変化の学習で習得した粒子のモデルと関連付けて、物質が水に溶けるようすを粒子のモデルで表現しようとしている。
		・水溶液の中では溶質が均一に分散していることを、粒子のモデルと関連付けて説明できている。	・コーヒースーガーや硫酸銅が水にとけるようすから、物質が水に溶けても、粒子のサイズや数が変化したりなくなったりしないことを、粒子のモデルと関連付けて表現している。	・物質が水に溶ける現象に興味をもち、物質が水に溶けるようすを粒子のモデルで表現するために試行錯誤している。
2 溶解度と再結晶 ◆1分野（2）ア（イ）㉔、イ 〈溶液の温度を下げたり、溶媒を蒸発させたりする実験を通して、溶液から溶質をとり出すことができることを溶解度と関連付けて理解するとともに、再結晶は純粋な物質をとり出す方法の一つであることを理解する〉	規 準 方 法 A 基 準 B 基 準	★溶液の温度を下げたり、溶媒を蒸発させたりする実験を通して、溶液から溶質をとり出すことができることを溶解度と関連付けて理解することや、溶解度が物質によって異なることを理解している。	・溶解度と再結晶に関する実験を見通しをもって行い、溶液から溶質をとり出せる理由に溶解度が関係していることを見いだして表現している。	★溶解度と再結晶に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		行動観察、レポート、ペーパーテスト	レポート、ペーパーテスト	行動観察、レポート
		・溶液から溶質をとり出す方法について、溶解度と関連付けて、いくつか具体例をあげて説明できている。	・物質が水に溶ける限度の量から、溶液から溶質をとり出す方法を予想して実験を行い、溶液から溶質をとり出せた理由について、いくつかの例について、溶解度曲線を使って正しく表現している。	・溶解度と再結晶の実験に興味をもち、どのようにしたら溶液から物質がとり出せるか試行錯誤している。
		・溶液から溶質をとり出す方法について、溶解度と関連付けて、具体例をあげて説明できている。	・溶液から溶質をとり出す方法を考え実験を行い、溶液から溶質をとり出せた理由について、溶解度曲線を使って表現している。	・溶解度と再結晶の実験に興味をもち、物質が水に溶ける限度の量から、どのようにしたら溶液から物質がとり出せるか試行錯誤しようとしている。
3 水溶液の濃度 ◆1分野（2）ア（イ）㉔、イ 〈質量パーセント濃度の公式を使って計算をし、水溶液の濃さを求めることができる〉	規 準 方 法 A 基 準 B 基 準	★水溶液の濃さは質量パーセント濃度で表すことができ、質量パーセント濃度は計算で求められることを理解し、知識を身に付けている。	・水溶液の濃度について問題を見いだして表現している。	・水溶液の濃度の学習に進んで関わり、他者との対話を通して、水溶液の濃さを表す方法について課題を設定しようとしている。
		ペーパーテスト	行動観察、ワークシート	行動観察、質問紙
		・質量パーセント濃度の定義と求め方について説明でき、いろいろな水溶液の質量パーセント濃度を求めることができている。	・砂糖水の甘さを比べる例などから、水溶液の濃さを表す方法について問題を見いだして適切に表現している。	・溶媒の量も溶質の量も異なる2つの砂糖水の濃さなどについて話し合い、身のまわりの例をあげながら、水溶液の濃さを表す方法について課題を設定しようとし試行錯誤している。
		・質量パーセント濃度の定義と求め方について理解している。	・砂糖水の甘さを比べる例などから、水溶液の濃さを表す方法について問題を見いだして表現している。	・溶媒の量も溶質の量も異なる2つの砂糖水の濃さなどについて話し合い、水溶液の濃さを表す方法について課題を設定しようとし試行錯誤している。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

ねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身のまわりにある物質について問題を見だし、問題を解決するために見通しをもって実験を行う。 ・身のまわりにある物質について興味を持ち、科学的に探究しようとする態度を養う。	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、身のまわりの物質とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質のすがたについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質における規則性を見いだし表現しているなど、科学的に探究している。	物質のすがたに関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価例		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
メダルの材料は何だ？ ◆1分野（2）ア（ア）㊦、イ ＜身のまわりの物質の性質に着目して物質を分類できることを見いだし理解する＞	規 準	・身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、身のまわりの物質とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。 ・身のまわりの物質を区別するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	★身のまわりのものがどのような物質でできているのか問題を見いだし、物質を区別するために見通しをもって実験を計画している。 ★物質を性質のちがいに着目して物質を区別し、表現している。	★他者との対話を通して、身のまわりのものがどのような物質でできているか、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	方 法	行動観察、レポート、ペーパーテスト	レポート、ペーパーテスト	行動観察、質問紙
	A 基 準	・メダルがどのような物質でできているかを物質の性質と関連付けて予想し、メダルの性質を調べるのに適切な方法を選ぶとともに、実験結果から物質を正しく推定している。 ・メダルの性質を調べる実験を安全に正しく行い、正確に結果を記録したり、わかりやすく整理したりできている。	・メダルがどのような物質でできているかを調べるにはどのようなしたらよいかという問題を見いだし、メダルがどのような物質でできているかを調べる実験を計画し、なぜそのように計画したか根拠を示している。 ・実験結果を分析して解釈し、メダルがどのような物質でできているか、根拠を示して表現している。	・これまでに学習した物質の性質を振り返りながら、メダルがどのような物質でできているかについて、実験の計画について話し合い試行錯誤している。
	B 基 準	・メダルがどのような物質でできているかを予想し、メダルの性質を調べるためにいろいろな方法をためすとともに、実験結果から物質を推定している。 ・メダルの性質を調べる実験を行い、結果の記録や整理ができています。	・メダルがどのような物質でできているかを調べるにはどのようなしたらよいかという問題を見いだし、メダルがどのような物質でできているかを調べる実験を計画している。 ・実験結果を分析して解釈し、メダルがどのような物質でできているか表現している。	・これまでに学習した物質の性質を振り返りながら、メダルがどのような物質でできているかについて、実験の計画について話し合い試行錯誤しようとしている。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目